



トラブルシューティング

- 「CLI コマンドを使用したシステムのトラブルシューティング」 (P.45)
- 「コンフィギュレーションの変更のトラブルシューティング」 (P.47)
- 「関連項目」 (P.47)

CLI コマンドを使用したシステムのトラブルシューティング

問題のトラブルシューティング時に、シスコのテクニカル サポート担当者がこれらのコマンドを複数実行することをお願いする場合があります。シスコのテクニカル サポート担当者はそのときに、コマンドに関する追加情報をお伝えします。



注意

これらのコマンドの一部は、システムのパフォーマンスに影響を与える場合があります。Cisco Technical Support による指示がない限り、これらのコマンドを使用しないことを強く推奨します。

- 「ログについて」 (P.45)
- 「Log コマンド」 (P.46)
- 「ログ出力の例」 (P.46)
- 「Trace コマンドの使用」 (P.46)
- 「Show コマンドの使用」 (P.47)

ログについて

システムの問題をデバッグするために、ログ メッセージを使用できます。ログ メッセージは、`messages.log` ファイルに保存されます。

デフォルトでは、ハード ディスクに対するログおよびトレースはオフになっています。`log trace boot` コマンドを実行すると、ログおよびトレース機能がすぐに開始されます。

ハード ディスクにあるログ ファイルおよびトレース ファイルを確認するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで `show logs` コマンドを使用します。このコマンドにより、使用可能なログのリスト、ログのサイズ、および最新の変更が行われた日付が表示されます。

各ファイルは 10 MB の固定長で、この長さに達すると、トレースおよびロギングは自動的に停止します。古いファイルは、新しいファイルによって上書きされます。



ヒント

ログ ファイルの内容を表示できない場合は、ログ ファイルを Cisco Unified SIP Proxy から外部サーバへコピーして、**vi** などのテキスト エディタを使用して内容を表示します。

Log コマンド

Cisco Unified SIP Proxy には、次の log コマンドがあります。

- **log console** コマンド
- **log console monitor** コマンド
- **log server** コマンド
- **log trace boot** コマンド
- **log trace buffer save** コマンド
- **show logs** コマンド
- **show trace log** コマンド

ログ出力の例

次に、ログ出力の例を示します。

```
se-Module (exec-mping) > show logs

SIZELAST_MODIFIED_TIMENAME
28719Mon Dec 22 14:15:06 EST 2008linux_session.log
2573Fri Dec 19 08:28:13 EST 2008install.log
8117Fri Dec 19 08:27:51 EST 2008dmesg
2274Fri Dec 19 08:27:55 EST 2008syslog.log
10455Thu Dec 18 16:38:13 EST 2008sshd.log.prev
1268Fri Dec 19 08:28:09 EST 2008atrace.log
384 Fri Dec 19 08:27:55 EST 2008debug_server.log
10380Thu Dec 18 16:06:58 EST 2008postgres.log.prev
1361Fri Dec 19 08:28:14 EST 2008sshd.log
5598Fri Dec 19 08:30:13 EST 2008postgres.log
1014Fri Dec 19 08:27:57 EST 2008klog.log
2298494Sun Dec 21 23:30:00 EST 2008messages.log
85292Fri Dec 19 08:25:33 EST 2008shutdown_installer.log
```

Trace コマンドの使用

Cisco Unified SIP Proxy のネットワーク コンフィギュレーションのトラブルシューティングを実行するには、Cisco Unified SIP Proxy EXEC モードで **trace enable** コマンドを実行します。

Cisco Unified SIP Proxy には、次の trace コマンドがあります。

- **log trace boot** コマンド
- **log trace buffer save** コマンド
- **show trace log** コマンド
- **show trace options** コマンド
- **trace disable** コマンド

- `trace enable` コマンド
- `trace level` コマンド

Show コマンドの使用

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションのトラブルシューティングを実行するために、標準の show コマンドに加えて次のコマンドを使用します。

- `show status queue`
- `show status server-group radius [server-group-name]`
- `show status server-group sip [server-group-name]`
- `show status sip`

コンフィギュレーションの変更のトラブルシューティング

問題 コンフィギュレーション データの一部が失われました。

推奨処置 変更内容を実行コンフィギュレーションに頻繁にコピーします。「[設定のコピー](#)」(P.41) を参照してください。

問題 システムを再起動したときにコンフィギュレーション データが失われました。

説明 再起動する前にデータを保存していませんでした。

推奨処置 `copy running-config startup-config` コマンドを使用して、変更内容を実行コンフィギュレーションからスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。Cisco Unified SIP Proxy の再起動時に、スタートアップ コンフィギュレーションがリロードされます。「[設定のコピー](#)」(P.41) を参照してください。



(注) メッセージはアプリケーション データと見なされて、スタートアップ コンフィギュレーションのディスクに直接保存されます (停電の場合や、新規にインストールする場合は、別のサーバにバックアップする必要があります)。これ以外のコンフィギュレーションの変更をスタートアップ コンフィギュレーションに保持するには、明示的に「コンフィギュレーションの保存」操作を行う必要があります。

関連項目

- CLI コマンドについては、『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。
- コンフィギュレーションのコピーについては、「[設定のコピー](#)」(P.41) を参照してください。

